

○11番（深谷秀峰議員） 11番深谷秀峰です。通告に従い質問をいたします。

まず初めに、平成29年度施政方針についてお尋ねをいたします。その中から、第6次総合計画に基づいた少子化・人口減少対策とそのPR方法についてお尋ねをいたします。

本市においては、これまで第5次総合計画に沿って各種事業を積極的に行ってまいりました。その中でも特に、最重要課題と掲げた少子化・人口減少対策に関する政策は、県内はもとより、広く全国にも知られるところであり、現在でも全国各地から市町村議員が行政視察に訪れております。私も議長時代に何度か対応させていただき意見交換をしましたが、中でも本市で行っている新婚家庭家賃助成や各種住宅関連の助成事業などについては、特に反響が大きかったように思われます。人口減少に悩む県内の市町村を初め、これからは本市で行っているこれらの政策が全国に波及していく可能性が大きいとも言えるのではないのでしょうか。新聞等の報道でも、この新年度予算発表時期はどこの自治体もこぞって、「少子化対策事業増額」や「人口減少対策に焦点」等の見出しが躍る時期でもあります。このことから本市が今まで他を大きくリードしていた政策に周りが次第に追いついてきているのは間違いありません。

これまで本市が先進的に進めてきた少子化・人口減少対策によって、少しずつ成果があらわれ始めてきていることは事実であります。施政方針にもあるように、去年は4カ月社会動態が増となりました。また、就学時の児童数も出生時の数を大きく上回るようになってきました。そこで重要なことは、これまでのどの政策のどの部分がこれらの成果につながってきているのかを十分に分析することだと考えます。

そこで、これから進めていく第6次総合計画に基づいた少子化・人口減少対策で、これまでの政策の分析を踏まえた中で、特に力を入れていかなければならない点についてお伺いいたします。また、U・I・Jターン等、定住促進を図る上では、より効果的なPR方法など広報戦略が必要と考えますが、今後どのように取り組んでいくのかあわせてお伺いいたします。

次に、市有財産の管理と活用についてということで、市有林の現況と継続的な管理についてお尋ねをいたします。

皆様ご承知のとおり、森林の果たす役割については、木材の供給や水資源の確保、土砂災害の防止、二酸化炭素吸収による地球温暖化防止など、さまざまな公益的機能を有していると言われております。約370平方キロメートルと県内一広い面積を持つ本市において、その51.17%は山林です。森林湖沼環境税が導入されてから9年、各地で間伐が進み、森林は徐々にその機能を回復しつつあります。

市有林に関する質問は平成20年、21年にも質問させていただきました。当時は本県で森林湖沼環境税が導入された時期で、荒廃した山林の機能回復に大きな期待が集まっておりました。当時の質問と答弁を振り返ってみます。

平成20年時の質問趣旨は、森林湖沼環境税の導入後、市有林の状況はどのようになっているのか、管理計画はどうなっているのかで、答弁は、市有林の実態把握に努め、財産台帳の整備、管理計画の策定を急ぎ進めていくというものでありました。また、21年のときの質問は、市有林の現況調査後、資産運用も含めた管理計画を検討していく上で、伐採、植林、育成という林業

の基本的なサイクルを展開していく考えはあるかという質問です。答弁は、除伐、間伐、伐採計画、販売計画を作成し、資産運用を図っていくとともに、伐採後は植林、間伐、伐採のサイクルにより管理していくということでありました。

そこで、8年がたった現在、市有林の状況はどのようになっているのか、資産運用面での収入はどの程度あるのか、森林湖沼環境税を活用した現在の取り組み状況はどうなっているのかお伺いいたします。また、森林の果たす環境保全も含め、総合的な維持管理についての基本的考えをお伺いいたします。

次に、観光資源の開発であります。その中から1つとして、林道を利用した新たなハイキングコースの設定についてお伺いいたします。

本市は阿武隈山系の南端に位置し、各所にハイキングやトレッキングに適した場所が多数あり、四季折々を通して山を歩きながら自然に親しむ目的の入込客が年々増えてきております。こうしたグリーンツーリズムの普及は、地元の入浴施設や直売所の利用拡大にもつながり、本市の観光面でも大変重要なものと言えるのではないのでしょうか。

平成21年3月議会でも、ハイキング道の整備、増設について質問いたしましたが、当時の状況は、主なハイキングコースが市内12カ所、総延長77.6キロメートル、年間利用者は推計で9万3,850人となっているということでした。また、新たなハイキングコースの開拓や整備に努めていくとの答弁もありました。そこで現在、市で把握しているハイキングコースはどのようなものがあるのか、代表的なものや新たに提案されたものなどをお伺いいたします。

また、山林には国有林を初め、各所に林道が通じており、場所によってはすばらしいハイキングコースになり得るところもありますが、コース設定をするに当たって、どのような問題があると考えているのかお伺いいたします。

最後に、天竜院の観光資源化について、その文化財としての価値についてお尋ねをいたします。

本市には、水戸徳川家に由来するさまざまな歴史遺産が数多く存在します。その代表的なものとして、水戸黄門で有名な水戸藩2代藩主水戸光圀が、隠居後、大日本史を編さんしながら晩年を過ごした西山荘があり、昨年国の史跡及び名勝に指定されました。また、平成19年には、350年の歴史を持ち、歴代藩主を初めとする119基の墓が広く点在する瑞龍山水戸徳川家墓所が国指定史跡に指定されました。いずれも東日本大震災で大きな被害を受けましたが、現在復旧工事が進んでいるところであります。

本市にはもう一つ、水戸徳川家の歴史遺産があります。里美地区折橋町山林内にある天竜院です。水戸徳川家11代藩主昭武公が、明治19年に別荘として建てた自然の地形を見事に生かした日本庭園と山荘ですが、ここには徳川幕府最後の将軍徳川慶喜も訪れ、近くの山で狩猟を楽しんだという記述も残っております。

また、この天竜院は、昭和25年に茨城県観光審議会によって選定された茨城百景にも選ばれております。以前は管理人が常駐し、近隣の小中学校の遠足など、希望者に公開されておりましたが、管理人鈴木初太郎氏がやめた後は、庭園の樹木や山荘内の物品が盗難にあったこともあり、一般公開もされないまま現在に至っております。

現在の状況は、庭園も含め整備の手が十分にゆきとどいていない状況であります。そこで、天竜院の歴史的文化財としての価値についてはどのように捉えられているのかお伺いいたします。

以上、ご答弁をお願いいたします。

○益子慎哉議長 答弁を求めます。市長。

〔大久保太一市長 登壇〕

○大久保太一市長 施政方針の少子化・人口減少対策に関するご質問にお答えをいたします。

当市におきまして、「子育て上手常陸太田」をキャッチフレーズに掲げまして、他市に先駆けてまして少子化・人口減少対策の各施策を実行してきているところであります。昨年の12月に策定いたしました第6次総合計画では、町の将来像を「幸せを感じ、暮らし続けたいと思うまち 常陸太田」、サブタイトルといたしまして、「子育て上手その先へ さらなる魅力の創造」としたところであります。これらにつきまして、さらに強力に推進をしまっている考えでございます。

特に少子化・人口減少対策といたしましては、出生率の改善に必要な結婚の推進、子育て支援のさらなる充実、魅力ある住宅環境の充実等によりまして、定住促進などに力を入れていきたいと考えております。

なお、これらの施策をより効果的に進めるためには、これまで以上に市内外に周知をしていくことが必要でありますことから、近隣の子育て世代や首都圏でU I Jターンを希望する方など、ターゲットごとに戦略的に情報を発信してまいりたいと考えております。

なお、最も貴重な意見としましては、これまで転入をしていただきました年間約1,000人の皆様方のフォローアップを行うことによって、さらに実感として不足をしているような施策等がありましたら、それについても拡充をしまいたいというふうに考えております。

施政方針でお示しました主要事業を着実に実行いたしまして、少子化・人口減少対策アクションプランに掲げる人口5万人の維持、出生数300人を目指しまして、全ての施策が少子化・人口減少対策に通じるという思いで、全庁一丸となって施策を実行してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○益子慎哉議長 総務部長。

〔植木宏総務部長 登壇〕

○植木宏総務部長 市有林の現況と継続的な管理についてのご質問にお答えをいたします。

現在、市が管理をしております市有林は、平成28年度末で357ヘクタール、流木の推定蓄積量は7万559立方メートルでございます。平成21年度に整備をいたしました市有林台帳により、土地及び流木の一括管理をしているところでございます。

次に、収入でございますが、国の関東森林管理局の事業であります分収造林制度により、過去に市が国有林へ国と共同の造林をし、成林後に販売して国と一定の割合で分収する分収林がございます。この分収林の間伐による流木売り払い収入が、本年度は3,917本で121万5,000円の歳入を見込んでいるところでございます。

次に、森林湖沼環境税等を活用した森林整備事業として、茨城県で初めてとなる森林整備推進

協定を市・国・県及び森林組合の4者により、昨年2月に締結をいたしまして、森林共同施業団地の認定を受けて、4者が連携して森林整備を進めていくことに合意をいたしたところでございます。これによりまして、町屋町の市有林6.5ヘクタールに、国有林、民有林を合わせた施業団地の824ヘクタールに、作業道、集積場の設置や間伐など、森林整備を平成30年度までに一体的に行う事業に取り組んでいるところでございます。

次に、維持管理の考え方でございますが、本市は県北の森林資源の豊富な地域に位置することから、山林を維持管理していくことが水源の確保や災害等をなくし、安心安全な住みよい環境をつくるものと考えておりますので、今後も市有林につきまして適切な維持管理をしてみたいと考えております。

しかしながら、市有林の総合的な維持管理をするためには、現在の市有林の状況を確認し、適正な管理計画により実行していかなければなりません。森林から成林になり、伐採するまでに長い期間を必要とする山林の運営におきましては、それによる収益を得ることが現在では非常に困難になっておりますことも事実でございます。

このようなことから、今後の市有林の管理運営方法につきましては、まずは市有林の状況の把握に努め、よりよい管理ができるように、森林組合等に委託する方法等も含めまして検討してみたいと考えているところでございます。

○益子慎哉議長 商工観光部長。

〔岡崎泰則商工観光部長 登壇〕

○岡崎泰則商工観光部長 商工観光部関係の観光資源の開発について、林道を利用した新たなハイキングコースの設定についてのご質問にお答えいたします。

本市は広大な面積を有し、その多くが中山間地や山地となっておりますことから、自然豊かな土地柄であり、ハイキングコースの様相を秘めたすばらしい自然や景観がある林道や尾根伝いの山道が数多く存在しており、その一部がハイキングコースとして活用されているところでございます。

本市の代表的なハイキングコースにつきましては、「高鈴県立自然公園ハイキングコース」「国見山ハイキングコース」「竜神峡・男体山周辺ハイキングコース」「鍋足山周辺ハイキングコース」の4つのコースがございまして、いずれも市町村合併以前からパンフレットやマップ等で紹介をしてきたところでございます。また、市内の各地域で地域資源を活用したエコミュージアム活動の一環としてハイキングコース等が提案されている例もございまして、特に真弓町、春友町、久米町、棚谷町及び上高倉町持方地区等におきましては、散策マップや解説板、総合案内板等が地域の方々の手で整備され、多くの方が散策に訪れて地域の活力にもつながっているところでございます。

新たなハイキングコースを設定するに当たっての問題点でございますが、市が紹介しております4つのハイキングコースの中には、国有林が数多く存在しておりますが、昨今のハイキングブームによるハイカーの事故やごみ問題等の発生により、茨城森林管理署から国有林をハイキングコースとして利用する場合は、借用申請の手続きが必要との指導を2年前から受けており、その手

続には、用地測量を含めた多くの費用がかかることが予想されることや、整備費や維持管理費、またコース内に民有地がある場合には、その借り上げ等の課題がございます。新たなハイキングコースの設定につきましては、これらの課題とあわせてハイカーのニーズと動向を今後見きわめながら研究課題とさせていただきたいと考えております。

○益子慎哉議長 教育長。

〔中原一博教育長 登壇〕

○中原一博教育長 ご質問の天竜院の歴史的文化財としての価値についてお答えいたします。

折橋町に所在する天竜院につきましては、先ほどご質問の中で議員からもございましたように、水戸徳川家第11代当主徳川昭武氏が、明治15年に開設された天竜院牧場に滞在する際の宿泊所として明治20年に完成したものであります。自然の地形を生かした庭園は、正面には溪流が小さな滝となって流れ落ち、そこから流れが2つに分かれて中州になっているところに、庭石やサツキが配置され、「悠然亭」と呼ばれる建物からその庭園を見渡せるようになっております。水戸徳川家の別荘として利用されてきましたが、現在は公益財団法人徳川ミュージアムと大能林業有限会社の共同で所有管理となっておりますが、常駐での管理はなされていないことから、以前のように整備がされていない状況となっております。

歴史的文化財としては、これまで指定等の措置はとられておりませんが、文化財庭園を専門とする大学教授などに現地を見ていただきましたところ、自然の地形を生かして滝を配置しながら庭園がつけられている点や、建物の北側に庭園が広がることで樹木の表側を見られるようになっている点などが名勝庭園として高い評価を得ているところであります。

○益子慎哉議長 深谷議員。

〔11番 深谷秀峰議員 質問者席へ〕

○11番（深谷秀峰議員） それぞれの項目について、再質問並びに要望を申し上げます。

まず初めに、施政方針の中の少子化・人口減少対策の部分であります。先ほど質問の中で言ったように、これまでかなり先進的な取り組みをしてきた本市でありますけれども、地方創生の流れの中で、周辺自治体もその施策が非常に常陸太田市に近づいてきているという印象はまぬがれないと思います。そうした中で、先ほどの第6次総合計画の中のキャッチフレーズにあったように、さらに一歩先へ行くためのさらなる人口減少対策が必要と思いますが、市長はどのように考えられているのかお尋ねをいたします。

○益子慎哉議長 市長。

○大久保太一市長 先ほど答弁の中でもちょっと申し上げたんですが、これまでやってきたさまざまな施策の中で、その結果として年間1,000人前後の方に、今市内に入ってきていただいております。そういう方は実際に市内で生活をしたときに、どういうところに不都合があり、あるいはどういうところがいいのか、そのあたりの実態をきちんと把握するということは、これからの政策を展開していく上で非常に重要なことだろうというふうに思いまして、それらについての意見を聞きながら、さらに政策充実を図ってまいりたい、そういうふうに思っております。

ただ、今地域間の自治体同士での競争の世界に全部がさらされているような状況になってきておりますけれども、本当にそれでいいのかということも一方では考える必要がありますから、さらにもうちょっと広域的な観点から人口減少対策というのはどうすべきかということも含めて検討していく必要があるだろうというふうには思っております。

具体的には、要するに、今回福島県のいろいろな自治体をめぐった中で、人口が8,000人前後しかいないんだけど、人口減少を来していない地域もあるわけです。そういう地域を見てもみますと、インフラの整備がきちんとなされているところ、そういうところは人口減少を来していない、そういうところもはっきりとうかがえるところがありまして、そんなことも含めて政策展開を進めていきたい。

先ほども言いました人口減少・少子化対策というのは、1つや2つの政策の結果ではなしに、総合的な政策の結果として答えが出るものというふうを考えまして、今後とも進めていきたいと、こういうふうには思っております。

○益子慎哉議長 深谷議員。

○11番（深谷秀峰議員） これは私の意見ですけども、今から8年前に、会派の視察で隣の栃木県鹿沼市に行っていました。当時鹿沼市は、恐らく全国の中で一番先進的に少子化対策をやっていた自治体なんですけども、いろいろな部門、5部門で22事業、それを私たちは学んできて、会派の中で練って市に要望書を提出したんです。ですから、現在常陸太田市でやっている少子化対策の中には、鹿沼市でやっていた事業がたくさん入っているのもまた事実であります。

それで8年たった現在、鹿沼市の状況はどうなっているのか気になって、実は先月視察の申し込みをしたんですが、驚いたことに、今はもう少子化対策は縮小してしまったと。詳しい事情は電話だったんで聞けなかったんですけども、先ほど市長が言ったように、今の日本全国で行われている少子化対策は、余りにも助成金の多い少ない、そういう競争が表立っているのではないかという気がいたします。市長が先ほど言ったように、競争じゃなくて、もっと人を引きつける、もっと子どもを産みたくなる、そういう政策が私はこれから絶対必要になってくると思います。意見です。

もう一つ、次の市有林のほうでお尋ねをいたします。ちょっと意地の悪い質問だったかもしれませんが、前に質問をしたときの答弁をそのまま引用させていただきました。財産台帳を作成して、なおかつ管理計画も作成するという答弁だったんですが、大分時間がたったんですけども、管理計画については現在できていないですか。

○益子慎哉議長 答弁を求めます。総務部長。

○植木宏総務部長 管理計画については現在できておりません。

○益子慎哉議長 深谷議員。

○11番（深谷秀峰議員） これから作成していくということによろしいでしょうか。

○益子慎哉議長 答弁を求めます。総務部長。

○植木宏総務部長 管理計画でございますけれども、先ほどご答弁させていただきましたように、現時点におきましては、国や県等の財政的支援、そういうものがございまして、さらに作業道な

どの環境整備の整った森林以外については、収益を得ることは極めて困難であるという状況にございます。これらの状況を見きわめながら計画等についても検討させていただきたいと考えているところでございます。

○益子慎哉議長 深谷議員。

○11番（深谷秀峰議員） ぜひとも前に質問したときの答弁のように、現在の状況に合った管理計画の作成は、私は必要だと思っております。

続いて、林道の活用について、新たなハイキングコースの設定について、1つお尋ねをいたします。先ほどのご答弁にあったように、現在は国有林、民有林も含めていろいろ制限がある中で、新たなハイキング道の設定は難しいというご答弁でしたが、これまでに国有林、民有林も含めて所有者側からハイキングコースについて苦情等のクレームが出たことはあるのでしょうか。お尋ねをいたします。

○益子慎哉議長 答弁を求めます。商工観光部長。

○岡崎泰則商工観光部長 土地の所有者であります森林管理署や民有地の所有者からの苦情、クレーム等については、特にないような状況でございます。

○益子慎哉議長 深谷議員。

○11番（深谷秀峰議員） 新たなハイキング道を市が率先して設定することは難しいということですが、エコミュージアム活動では、かなり地域の人たちが新たな地域のお宝を探した中で、すばらしい景観を有するようなハイキングコースもあると思うので、ぜひともいろいろな場面でその紹介、PRをお願いしたいと思います。

最後に天竜院についてであります。これが一番難しいですが、1つ要望というか、ちょっと教育長のご意見をお伺いしたいと思います。

教育長は、先ほど天竜院の価値について、専門家の話を交えてご答弁をいただきましたけども、教育長ご自身はごらんになったことがございますか。

○益子慎哉議長 答弁を求めます。教育長。

○中原一博教育長 先日、天竜院のほうへ行かせていただきまして、見てまいりました。

○益子慎哉議長 深谷議員。

○11番（深谷秀峰議員） ごらんになった感想などはいかがでしょう。

○益子慎哉議長 教育長。

○中原一博教育長 先ほど大学教授の言葉について述べさせていただきましたが、実際に見ました感想でございますけれども、自然をそのまま生かした庭園として価値はあるものと思っております。ただ、そこを文化財として指定してそのまま活用、あるいは近くまで行っての見学については、やや地形上無理があるのかなというようなことで捉えております。

○益子慎哉議長 深谷議員。

○11番（深谷秀峰議員） 質問を終わります。